

自然を破壊している葛西臨海水族園建て替え計画への対応に関する陳情

(生活振興環境委員会付託)

受 理 番 号 第 3 4 号

受理年月日 令和 6 年 5 月 1 0 日

付託年月日 令和 6 年 6 月 1 9 日

陳 情 者

陳 情 原 文

(1) 800本の樹木の移植という名のもとに、江戸川区共有の自然である森の生態系が破壊されています。

東京都が進める葛西臨海水族園の建て替え計画では、樹木1,400本のうち、800本を移植し、600本を伐採するとされ、すでに工事が進められています。しかし、樹木の移植だけでは、生態系の森を守ることはできません。34年もの歳月をかけて築かれた自然の生態系は、土壌と水の流れが一体となって1,400本の木々と森を支えています。この樹林帯が破壊され、生態系は壊滅し、生息する動植物は絶滅の危機に瀕しています。土壌と生態系を含めた「流れ」エリア全体を保存すべきです。江戸川区民共有の自然でもある森が破壊されようとしています。江戸川区議会は今回の計画の見直しを明確に表明すべきです。

(2) 自然との共生を掲げる水族園が自然破壊をすることは許されません。

自然を大切に育む気持ちを育む水族園が、自然を犠牲に建て替えられるという矛盾を、子ども達にどう説明するのでしょうか。淡水生物館を訪れたことがありますか。里山の自然が都市化による開発で失われる過程がパネルで展示されており、一度失われた自然は二度と取り戻せないことが語られています。子ども達に自然の大切さを訴えながら、水族園自ら自然を破壊する愚かな行為は許されません。江戸川区の子ども達に説明できないという観点からも、江戸川区議会は今回の計画の見直しを明確に表明すべきです。

(3) 住民の声を無視する政策決定は問題です。

PFI方式による情報非公開と民間の提案による行政の意思決定は、住民の知る権利を侵害し、住民自治の民主主義を著しく逸脱しています。PFIは情報非公開と知りながら、情報開示だけを求めてきただけの江戸川区の対応は「やってる感」と言われてもしかたありません。森林の破壊は渡り鳥の生息に影響し、ラムサール条約湿地にも悪影響を及ぼします。江戸川区長のように、葛西臨海公園の干潟の自然を讃えながら、一方で同公園内の自然破壊を許してしまうのはSDGsに反します。江戸川区議会として、住民の声を計画に反映できるよう、住民説明会開催を求めるべきです。

つきましては、下記のとおり陳情いたします。

(裏面に続く)

記

- 1 葛西臨海水族園の建て替え計画の見直しを求めると、明確に表明してください。
- 2 住民の声を計画に反映できるよう、住民説明会を開催するよう求めてください。